

## 事務局だより

「事務局だより」 (第2回)

2021/4/16

DOWAS事務局 有馬博史

(佐賀大学海洋エネルギー研究所 准教授)

みなさん、こんにちは。DOWAS事務局の有馬博史です。第2回目の「事務局だより」をお届けします。前回に引き続き、深層水関連の話題を発信いたします。よろしくお願いいたします。

前回、私は佐賀県伊万里市にある海洋エネルギー研究所\*伊万里サテライトと、沖縄県久米島町の同・久米島サテライトの2つの拠点を行き来していることとお話ししましたが、このうち、今回は久米島サテライトと久米島についてお話したいと思います。

私が初めて久米島を訪ねたのは、2013年1月で今から9年前になります。久米島には沖縄県海洋温度差発電実証試験設備 (OTEC) があることが知られていますが、当時OTECはまだ建設中であり、私はその建設現場の見学のために訪問しました。またその時には、沖縄県海洋深層水研究所も訪問しており、海洋深層水を日量13,000トン取水する現場や研究所内の関連施設を見学させていただきました。深層水施設の見学も私にとって初めてのことであり、またOTECで実用的な海水利用を行う現場を直接確認できた非常に貴重な経験でした。OTECはその後2013年3月に落成し発電を開始しています。さらに2014年10月にはOTECに隣接した敷地に佐賀大学海洋エネルギー研究所 (当時は研究センター) の久米島サテライトが完成しました。私はその久米島サテライトにおいて、海洋深層水を用いた熱交換器の実験、海水淡水化の実験、海水冷房の研究などを行っており、特に海洋深層水や表層水がOTEC用プレート式熱交換器に与える影響の調査を中心に行っています。具体的には、熱交換器にアルミ材を使うことを考え、それを用いた海水耐久実験や伝熱性能の測定の実験を行うことで、アルミ材の使用可能性についての研究となります。

さて、久米島にはこれらの実験のために年に数回出張しており、これまでの訪問は34回になりました。

た。そのため、久米島にも結構詳しくなると自負?しています。

そこで、この機会に久米島についてご紹介したいと思います。

久米島は、沖縄本島から西に約100 kmにある人口7,450人 (2022年3月末) の島です。主な産業はサトウキビ生産や漁業、観光です。中でも、海洋深層水を利活用した産業が盛んで、クルマエビや海ブドウの養殖、ミネラルウォーター、化粧品の生産などが島内で行われています。その他に海洋深層水の温浴施設もあります。観光では、はての浜、畳石、久米島ウミガメ館はおすすめの観光スポットとなっています。前述のOTECや沖縄県海洋深層研究所も事前申し込みが必要ですが見学ができます。

私は主に実験で訪問することが多いために、なかなか島で観光を楽しむことはできませんが、毎回島での食事は楽しみにしています。魚介類はもちろん新鮮ですし、その中でも、海洋深層水を利用した食材であるクルマエビの料理や海ブドウはとてもおいしいです。また、沖縄そばの一つである久米島そばや、島でとれるモズクも絶品です。こちらもおすすめとなっています。

私の職場である久米島サテライトと久米島についてご紹介させていただきましたが、私にとって訪問が非常に楽しい島です。皆さんも機会がございましたら久米島にご旅行いただき、島を堪能いただければと思います。

長文となりましたが、今回はこの辺で終わらせていただきます。お付き合いいただきありがとうございました。

\*佐賀大学海洋エネルギー研究センターは海洋エネルギー研究所に改称しました。(2022/4/1~)